

## 教育長定例記者会見 会見録

日時：令和7年7月22日（火） 11時00分～

場所：教育委員室

### 発表項目

- ・ 令和8年度県立みえ四葉ヶ咲中学校の生徒募集を行います
- ・ 三重県高校生バイシクルサミット2025を開催します
- ・ 「多文化共生社会で活躍できるリーダー育成プロジェクト」として県内企業や海外事業所（ベトナム）を訪問します
- ・ 「未来のスペシャリスト育成プログラム」を実施します
- ・ 「高校生向けデータアナリスト入門講座」を開催します

### 質疑事項

- ・ 令和8年度県立みえ四葉ヶ咲中学校の生徒募集を行います
- ・ 三重県高校生バイシクルサミット2025を開催します
- ・ 「多文化共生社会で活躍できるリーダー育成プロジェクト」として県内企業や海外事業所（ベトナム）を訪問します
- ・ 水難事故の防止について
- ・ 公立学校における盗撮防止に向けた緊急調査の結果について
- ・ 参議院議員選挙の結果について

### 発表項目

#### ○令和8年度県立みえ四葉ヶ咲中学校の生徒募集を行います

配付資料の説明をする前に、まず、今のみえ四葉ヶ咲中学校の生徒の状況について簡単に触れたいと思います。まず、夜間中学コースの方ですけれども、在籍生徒40名中、オンライン参加も含めて授業日の半分以上出席している生徒が67.5%という状況です。ほとんどの生徒が成人年齢なのですが、出席している生徒は学習意欲が高く、みずから学びを進めることができている。それから、学びの多様化学校コースの方ですが、在籍生徒30名中、オンライン参加も含めて授業日の半分以上出席している生徒は96.7%と、非常に高い出席率を維持できています。教職員が時間をかけて、きめ細かな対応を行っていることが功を奏していると思っています。こうした状況もふまえて、令和8年度の生徒募集について説明しますので、配付資料をご覧ください。まず募集の考え方ですが、夜間中学コースは義務教育を十分に受けられなかった方の学びの保障という観点を重く見まして、定員を設定せず、柔軟に受入れることといたします。それから、学びの多様化学校コースの方は、個々の

状況に応じた柔軟な学びや、生徒及び保護者へのきめ細かな支援を行うということが重要となりますので、各学年の定員・募集人数を定めてまいります。そして、この考え方を受けて、2の令和8年度入学・転入学の募集概要ですけれども、(2)定員及び募集人員をご覧いただきますと、夜間中学コースは先ほど申し上げたように定員を定めませんこととします。一方、学びの多様化学校コースの方は、現在の在籍人数をふまえて、各学年の定員・募集人数を定めます。具体的にはご覧のように、定員は1年生7人、2年生15人、3年生12人の計34人とします。募集人数は1年生7人、2年生2人、3年生4人の計13人です。少しわかりにくいと思いますので、補足します。次の行に※がございますが、令和7年度の在籍人数は1年生13人、2年生8人、3年生9人です。まず、この生徒たちがそのまま進級したと想定します。そのうえで、2年生や3年生から転入したいという生徒もおられると、そういうことにも対応できるように、各学年の定員を設定しているご理解ください。なお、ここに記載していませんが、もし入学希望者が募集人数を超えた場合、これは抽選により入学者を決定することとなります。(3)入学資格については、本年度の考え方と同様です。それから3の学校説明会等の日程については、記載のとおりです。あと、この配付資料の最後、4をご覧ください。夜間中学コースについては、学びの保障という観点が大切ですので、令和7年度内においても、今後随時受け入れを行うこととしたいと考えています。

### ○三重県高校生バイシクルサミット2025を開催します

配付資料の1の趣旨をご覧ください。三重県において令和6年度に県立高校生が関係した交通事故は407件で、そのうち357件が自転車事故でした。また、県立高校に通う生徒のヘルメット着用率ですが、令和6年5月時点の7.3%から、今年の5月時点では11.4%と、4.1ポイント増加しましたが、依然として低い状況になっています。そこでこのサミットを開催しまして、県内の高校生が交通ルールの遵守やヘルメット着用について意見交換を行い、交通事故防止に向けて主体的に取り組む態度を育ててまいります。サミットは7月30日午後、県庁講堂での開催、県立高等学校19校から生徒48名が参加の予定です。当日のスケジュールは記載のとおりですが、座学の後、グループディスカッションを行うという日程になっています。それから、サミット後の取組として、サミットで高校生が発表した意見をもとに、チラシやポスター等の啓発資料を作成しまして、自転車事故防止の取組を推進していく予定です。また、高校生が考えた交通安全クイズをもとに、県内の交通安全啓発活動で用いる交通安全教材を作成することとしています。なおこのサミットは昨年度に引き続き、今年度が2回目の開催となるものです。

### ○「多文化共生社会で活躍できるリーダー育成プロジェクト」として県内企業や海外事業所（ベトナム）を訪問します

この取組は、県民提案に基づいて予算化された事業です。概要は、配付資料の1をご覧ください

ださい。外国人労働者のさらなる増加が見込まれる中で、高校生が将来外国人労働者をはじめ価値観の異なる多様な人々と協働し、リーダーシップを発揮できる力を育成しようという取組です。外国人労働者を雇用している県内企業や、海外事業所を訪問しまして、施設見学や従業員等との意見交換を行います。具体的には配付資料の2にありますように、大きく4つの取組があります。まず、(1) 国内プログラム①として、三重金属工業株式会社上川工場を訪問し、ベトナム出身の従業員等から話を伺います。(2) 国内プログラム②では、JICA三重デスクよりオンラインで講義を受けます。そして(3)がメインの海外プログラム、ベトナム研修です。三重金属工業株式会社ハノイ事業所、日本トランスシティ株式会社ハノイ事業所、JICAベトナム事務所、ベトドゥック高校を訪問しまして、意見交換や交流を実施します。資料裏面、最後に(4)国内プログラム③として、多文化共生社会で活躍するために必要なことを生徒同士で話し合い発表します。参加する生徒は県立高校13校から20名がすでに決定しています。実は、もともとの応募は、22校から205名もの応募がございました。応募の際に提出された作文により、20名を選定したものです。このようにリーダー育成を目的として、県教育委員会全体として海外研修を行う取組は、今回が初めてです。過去、語学研修ということであれば、令和元年度にシンガポール、マレーシアに行った例がございます。あと、今回行き先をベトナムとしましたのは、三重県における外国人労働者を国籍別に見ると、ベトナムが最も多いということが主な理由となっています。

#### ○「未来のスペシャリスト育成プログラム」を実施します

配付資料の1にありますように、この未来のスペシャリスト育成プログラムとは、夏季休業中の集中講座で、大学や県内の特色ある企業を訪問し、先端技術の見学や体験、企業経営者等や大学教員による講演、企業で働く方や他校生との意見交換などを実施する取組です。高校生が、今後必要とされるデジタル技術や変化に対応する力を身につけ、自分の将来について考える機会とするものです。訪問先は三重大学と、株式会社浅井農園です。参加生徒は県立高校9校から23名です。実施内容のところを見ていただきますと、1日目の三重大学では、講義と先端技術、これはドローンやVR等、の操作体験。浅井農園では、企業の見学と社員による講演。2日目の三重大学では、経営者による講演と、参加生徒によるグループディスカッションを行う予定です。デジタル技術を活用した教育の推進を図り、将来のデジタル人材の育成を見据えて実施する意欲的な事業ですので、ぜひ取材いただければと思います。

#### ○「高校生向けデータアナリスト入門講座」を開催します

配付資料1にございますように、この高校生向けデータアナリスト入門講座とは、スポーツにおけるデータ分析が専門の三重大学教授等が、デジタル技術を用いたデータの収集・分析等に関する講義・演習を高校生対象に行うものです。生徒たちにはぜひ、スポーツを切り口としたデータサイエンスの面白さを体感してほしいですし、情報や情報技術を活用して、

問題解決力や自分の考えを形成する力を身につけてほしいと考えています。

8月18日、22日の2日間、三重大学での実施でございまして、参加生徒は県立高校7校から10名です。それから4の実施内容についてですけれども、映像解析技術を使ったデータ取得に関する演習。ボールを投げる動作について、簡易動作分析ソフト、モーションキャプチャーシステムを使った動作分析の演習。統計的手法やグラフを用いた収集データの分析についての演習など、身近なスポーツを切り口にデータ分析に取り組み、楽しみながらデータサイエンスを学ぶことができるものとなっています。なお、この事業は今年度初めて実施するものでございます。

### 発表項目に関する質疑

#### ○令和8年度県立みえ四葉ヶ咲中学校の生徒募集を行います

(質) 県立みえ四葉ヶ咲中学校ですけれど、概ね順調に進んでいると思うのですが、何か課題は見えてきているのでしょうか。

(答) 今のところ、順調に進んでいます。大きな課題というのは聞いていませんけれども、教員の負担は増えているので、気を付けていきたいと思っています。

(答 小中学校教育課) 当初、新しい取組ということで、教員は小学校籍、中学校籍、県立学校籍の先生にも集まってもらい、どのように授業を進めていくかというところでもかなり試行錯誤したと聞いておりますけれども、生徒たちとの関係性もできてくる中で、しっかりと授業ができるようになったと聞いております。

(質) 教員の負担というのは、授業の進め方が懸念されていたということですか。

(答) 初めて取り組む授業の方式ですので、当然慣れもありませんし、これから慣れていただくということになるわけです。

(質) そもそも、夜間中学コースは定員を定めていなくて、学びの多様化学校コースは定員を定めている。ここの違いが釈然としないところですが、理由を説明していただけますか。

(答) 夜間中学コースは学びの保障ということで、これまで義務教育を受けられなかった方々のセーフティネットのようなものでございますので、しっかりと受け入れさせていただきたい。そして、生徒が成人年齢なので、教員がそれほどきめ細かに指導しなくても自分で色々と考えていただけるということもございます。一方で、学びの多様化学校コースは、しっかりときめ細かな教育をしていく必要があります。あまり多いと、こちらのキャパオーバーになってしまう可能性もございますので、今回は34人を上限にして、抽選とさせていただきたいと考えています。全国調査をしましたが、全国の夜間中学も定員はあまり定めていませんし、全国の学びの多様化学校では定員が定められています。同様の傾向でございます。

(質) 夜間中学がセーフティネットというのであれば、学びの多様化学校についても、不登校傾向にある子どもたちのセーフティネットという意味合いはあるものの、どちらか

というと、教育を提供する側の負担というところも。

(答) きめ細かな教育をしていく、定員に上限を置くという考え方です。

(質) 去年に比べて周知もされてきていると思うので、認知度も高まっていると思うのですが、それぞれどれぐらい応募があると見込んでいますか。

(答) こちらの見込みとしては、おそらく夜間中学コースは年間15名ぐらいの応募があるのではないかという感覚です。学びの多様化学校コースは、不登校の生徒が増えていますので、ニーズは非常に多いだろうと思います。今後、各市町の方でも、学びの多様化学校は検討されていくと思いますので、市町の取組も注視していく必要があると思っています。

(質) 学びの多様化学校コースが2年生と3年生で、微妙に定員が違うというのは。

(答) 現在は、1年生13人、2年生8人、3年生9人です。1年生が全員進級しますと、来年2年生が13人になるわけですが、募集段階で、2年生から転入したいという人がいる可能性がありますので、その時に、この13人にプラスした定員を定めておかないと1人も受け入れられないということになります。ここは2人受け入れられるように定員を設定したということになります。3年生の方は今年2年生の8人が来年3年生になって8人、そこにプラス4人できるように、12人という定員にしたというふうにご理解ください。

(質) 令和8年度における1年生の募集人数は減らしたということになりますか。

(答) どの学年よりも、多い人数を設定しているということになります。来年受け入れられるのはこのままでいくと13人なので、その中で1年生が一番多くの人数を設定しているというふうに見ていただければと思います。

(質) 基本的には教育を提供する側のキャパの問題というところがあるわけで、普通の一般的な学校とは違うものの、1学年何人ぐらいというイメージはあるのですか。毎年募集していくとある程度平準化していったりするのかなど。

(答 小中学校教育課) 学びの多様化学校コースについては、今年は全体で30名で学校運営をしているのですが、やはり丁寧にきめ細かに対応していこうと思うと、教員の数からいきますと30人から35人ぐらいがベストではないかと考えております。その中で、今年すでに在籍している子どもたちが、学年が上がって推移していく中で、何人募集していくかというところですね。実際、1年生が今多いのですが、最終的には少し平準化していきたいとは言いながらも、毎年各学年を募集していく必要があるかと。それと、3年生については進路のことも考えて、環境を変えて、この学びの多様化学校に通いたいという生徒が出てくる可能性があるというあたりで、進路も視野に入れながら、2年生よりも3年生を多めに設定しているところがございます。ですので、最終的には30名から35名の中に、全体の数がおさまりながら、2年生、3年生と、複数人募集できるようにということで今年はこのように設定させていただきました。

(質) 教職員の配置は、令和8年度も今年と同じぐらいになるということでしょうか。

(答) 基本的にはそうですね。学級数で決まりますので、今年と一緒です。常勤教員が 12 人います。

### ○三重県高校生バイシクルサミット 2025 を開催します

(質) 昨年も実施したということですが、効果も少なく、少しヘルメットの着用率が伸び悩むという感じですか。

(答) 昨年は 7.3%、今年が 11.4%なので、まだまだ上がっていないのですけれども、学年別に見た場合に、昨年の 1 年生が 13.3%だったのが、今年の 1 年生は 20.8%となっているなど、どの学年も少しずつ上がっています。上がってきているというのは、いろいろと取り組んでいる成果だろうと思っています。校則に努力義務として記載するというのも、今働きかけています。昨年までは、全体で 10 校が校則に努力義務として書いていたのですけれども、今年の 4 月に調べてみますと、23 校が書いているということもわかっています。そういう気運が盛り上がりつつありますので、このまま着用率を上げていければと思います。

(質) これ以外にどのような取組をされていますか。

(答) J A F と連携しまして、合格者の登校日や入学式に新入生の保護者に向けて、ヘルメットの重要性を伝え、また、ヘルメットの展示や販売を実施する取組を多くの高校で実施しています。あと、久居高校では、文化祭でヘルメットコンテストを実施しています。伊勢高校では、生徒指導通信で全校生徒への啓発を実施しています。あと、三重県警察では、セーフティ・バイシクルリーダーを生徒に委嘱している取組がございまして、昨年は県立高校 4 校、私立高校 1 校で実施されています。このようなさまざまな働きかけを今しているところでございます。

(質) 校則になっている学校はないということですね。

(答) 努力義務です。やはり費用負担、ヘルメットを自分で買っていただかなければならないので、完全に義務化というのはなかなか難しいと思います。

(質) 中学校で着用しているヘルメットをそのまま高校にとすることも難しいのでしょうか。

(答 生徒指導課) もちろん中学校で使っていたヘルメットをそのまま高校で使っていたとしても構いません。

(答) 本人がそれでよければ、OK だと思います。

(質) 中学校のヘルメットは安全性は高いけれども、高校では少し使いづらいということでも持っていないということでしょうか。

(答) 中学校のヘルメットは、無償で与えられていますので、使い勝手がよければ、高校になってからも使っていただいても大丈夫だと思います。

### ○「多文化共生社会で活躍できるリーダー育成プロジェクト」として県内企業や海外事業

## 所（ベトナム）を訪問します

(質) かなりの応募者があったということですが、費用負担もそれほどないからという感じでしょうか。本当にこんなにたくさんの高校生が多文化共生に興味があって、こういう結果で、人数が絞られてしまうということになったのでしょうか。

(答) 関心が非常に高いというふうに認識しています。

(質) 行かれる方が 20 人になってしまいますけれど、意欲を示した高校生に対してフォローは考えていますか。

(答 高校教育課) 残りの生徒については、特にフォローということはないのですけれども、行かれた生徒からの報告書のようなものは作って見ていただけるようにします。来年度以降もこういう研修は開催していきたいと思っていますので、またそこにもエントリーしていただければと思っています。

(質) 発表の場への参加とか、そういうことは優先的にということはありませんか。

(答 高校教育課) 今のところは考えていません。

(質) 今回の発表項目とおしてなのですけど、全部参加者は県立学校ということになっていて、これは限定しているという理解でよろしいですか。

(答) そうです。

(質) ねらいというか、理由を伺ってもよろしいですか。

(答) それは私立高校はどうかという趣旨でよろしいですか。どうしても広げられないかという、別の議論になりますけれども、基本的に教育委員会の予算で実施する事業ですので、公立学校の生徒に対して実施するという、そういうオーソドックスな感覚で考えています。

(質) ベトナム訪問や未来のスペシャリスト、データアナリストは県立高校の魅力化の一環として、県立高校に入るとこんなこともありますよという形であり得るのかなと思います。自転車事故というのは誰でも遭うものなので、より広い生徒に重要性を理解してもらうことが大事ではないかと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

(答 生徒指導課) おっしゃるとおりなのですが、現段階で応募があったのが 19 校の公立高校です。募集については、私立高校にもしています。

(質) 他の事業は県立高校だけですか。

(答) 高校教育課の事業は、県立高校に限定しての募集となっています。

## ○ 水難事故の防止について

(質) 夏休みに入りましたけれど、毎年、水の事故などにより児童生徒が亡くなることがあると思うのですが、教育委員会から各学校に向けてどのような呼びかけを行うのですか。

(答) 夏休みが近づくと、各学校に向けて、毎年繰り返し文書を発出して注意喚起を行っています。今年に入って発出した文書は、これまで 4 月以降 4 回ございますので、注意喚

起というのはしっかりやれていると思っています。あと、7月23日から各地域に分けて全6回行う小中学校の生徒指導担当教員を対象とした研修会があるのですが、そこでも水難事故の防止に触れまして、子どもたちの安全を守る取組を進めるように周知徹底をしたいと思っています。

(質) 教員の研修会は、夏休みに入ってからですか。

(答) そのとおりです。7月23日から、各地域で6回行います。

(質) その研修を経て、教員は子どもたちにどのように伝えるのですか。

(答) これは生徒たちの安全を守るための教員に対して行う研修です。

(質) 夏休みに向けて伝えるものだと思っていたのですけれど。

(答) 子どもたちに対しては、夏休み前の集会などで、学校として注意喚起をしていると我々は考えています。

(質) 注意喚起を促すような文書を、教育委員会から各学校にあらかじめ発出しているということですか。

(答) そうです。教育委員会から発出したのが6月27日です。

(質) 集会で指導をするようにというような内容で発出しているのですか。

(答) こういうところに注意してくださいという内容ですので、各学校は生徒に周知するために、さまざまな場面を活用していると思っています。

(質) 各地域に対して、こういうところで遊んでいけないというような注意看板を立ててくださいなどの要請を、教育委員会担当課から行うことはありますか。

(答 生徒指導課) それはしていないのですが、国土交通省からの水難事故防止についての通知などは、教育委員会を通じて周知をさせていただいています。

#### ○ 公立学校での盗撮防止に向けた緊急調査の結果について

(質) 前回の定例会見で、公立学校での盗撮防止に向けた緊急調査についての項目があったと思うのですけれど、9日までの調査期間で、何か緊急で対応を要するような結果は出ていますか。

(答) 今ちょうど調査結果を取りまとめているところです。先ほど議会事務局から報道発表があったはずですが、7月30日に教育警察常任委員会が開かれることになりまして、我々としては、今回の調査結果を取りまとめて、対応なども検討し、途中段階になるとは思いますけれども、こういう方向で取り組んでいきたいということも、常任委員会の場でお話ししていきたいと思っています。

(質) これは各学校向けの調査だったと思うのですけれども、生徒向けに調査をする予定はございますか。

(答) 生徒に対しては、毎年セクハラに関するアンケートというのをやっております、2学期に実施する予定ですので、そういうところで把握していければと思っています。

○ 参議院議員選挙の結果について

(質) 参院選の結果の受け止めはいかがですか。

(答) 国全体としては、物価高や、少子化といった閉塞感が漂う中での選挙でしたので、有権者は、与党に対して厳しい判断をしたのかなと受け止めています。県内については、当選された小島さんは、県議会議員としても非常に活躍していただいた方で、しかも教育に対して非常にいろいろな知見を持っている方です。我々も、これまでいろいろな形でお世話になりましたので、国政に活躍の場を変えても、これからも私どもと一緒に、教育の発展に邁進していただければと思っていますところでございます。

(質) 例えば常任委員会とか、教育長の前職のお立場からでも構いませんけれども、小島さんのエピソードで特に印象的なことはありますか。

(答) 昨年の夏の一般質問で、教育公務員が部落差別事象を起こしたことについて、厳しい追及の姿勢でご質問いただいて、我々も気持ちを引き締めることができました。小島さんとの間で、私はそれが一番印象に残っております。

以上、11時35分終了